

## 第5学年3組 国語学習指導案

第4校時 場所 視聴覚室 授業者 木下 忠志

### 1 単元名 物語の全体像を捉え、綾の『たずねびと紀行文』をつくろう（「たずねびと」光村図書5年）

子どもたちは、中学年までに登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する学習に取り組んでいる。また、「銀色の裏地」の学習では、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える学習に取り組んでいる。

このような子どもたちに、本単元では「たずねびと」に出合わせる。本作品は、「綾」の一人称視点で物語が展開し、叙述には「くらくらした」「うちのめされるような」「心に浮かび上がってきた」のように、綾の心情が様々な表現によって表されている。そのため、物語の展開（内容面）だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面も考えながら読むことで、綾が会うものや人、経験したことがもつ物語内での役割や繰り返し登場するものや人物の心情、情景描写が物語の展開とともにどのように変化していくのかに着目し、物語の全体像を具体的に想像する力を身に付け、物語のもつたのしさを味わうことを願う。

そこで、本実践では『たずねびと紀行文』を作るという言語活動を設定する。最後の場面に着目し、綾が物語の旅をどのように振り返るのか「紀行文」を考えることを通して、人物の心情を具体的に想像するとともに、物語に出てくるものや人がどのような役割をもっているのかを人物の心情と関連付けて考えることで、物語の全体像を想像することができるようにする。

### 2 単元について

- (1) 本単元では「たずねびと」を学習材とし、繰り返し登場するものや人物の心情、情景描写などの表現に着目し、物語の全体像を具体的に想像する力の育成をねらう。

そこで、本実践では『たずねびと紀行文』という言語活動を設定する。本学習材は「綾」の一人称視点で展開するため、読者は物語を読み進める中で、「綾」の出会いや心情を迫体験し、広島での出会いや経験にどのような影響を受け、「綾」自身の考え方や心情がどのように変化していったのかを想像していくであろう。また、本学習材には「名前」「数」などの言葉が繰り返し描かれており、物語を象徴する表現となっている。また、川や空といった情景描写や登場人物「綾」の心情を暗示するような心情描写も多彩である。そのため、そのような叙述に立ち止まり、それらが物語に対してもつ役割や意味について考えることで、物語の全体像を具体的に想像することができると考える。そこで、実践にあたっては、以下の2点に留意する。

- 言語活動『たずねびと紀行文』に取り組み、綾の視点から「この旅がどのような旅だったのか」を表す言葉と叙述を基に想像した理由を記述することで、物語の全体像を具体的に想像することができるようにする。
- 言語活動の手応えや困り事を色カードで視覚化し、自分の納得度や問いなどを直接書き込むことで、対話の相手を選択して、問いの解決に生かすことができるようにする。

- (2) 子どもたちはこれまで、「銀色の裏地」を学習材として、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える学習に取り組んでいる。そこで身に付けた力を生かし、本単元では物語の全体像を具体的に想像する力を身に付けていく。本単元の学習は次単元の「大造じいさんとガン」を学習材とし、優れた表現に着目して人物像を捉える学習へと繋がっていく。

(3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)

- ① 3分の2の子どもが物語の学習を好きであるが、国語を苦手だと感じている子も多い。
- ② 登場人物の心情を想像する力は身に付いているが、物語の全体像を捉えることができていない子どもはほとんどいない。

### 3 単元目標

- (1) 心情や全体像を捉える際に、比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。
- (2) 心情や情景を表わす表現に着目し、物語の全体像を具体的に想像することができる。
- (3) 粘り強く物語の全体像を想像し、学習の見通しをもって考えたことを言語活動のつくりかえに生かそうとしている。

### 4 指導計画 (8時間取り扱い)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 学習の見通しをもつ。	○ 既習教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を取り上げ、登場人物の視点から物語を振り返ることで、言語活動へのイメージをもつことができるようにする。 ○ 範読を聞き、最後の場面の挿絵を基に、綾の視点から物語の旅を振り返ることで、個々の表現のずれから単元で取り組む言語活動を設定し、学習の見通しをもつことができるようにする。	【知】登場人物の行動や会話、心情や情景を表す表現に着目できる。(発言・記述)
2 ～ 7	2 『たずねびと紀行文』に取り組む。 (1) 登場人物の心情やその変化、繰り返し出てくるものや人の役割について話し合う。 (2) 登場人物の心情を暗示している表現について、その意味や役割について話し合い、言語活動をつくりかえる。	○ 前時の振り返りを基に個々が着目している表現や物語において重要だと思う叙述を共有することで、言語活動の見通しをもつことができるようにする。 ○ 物語の全体像を表す言葉(旅の名前)とその根拠となる叙述や考えの理由について記述し、綾の心情やその変化について考えることができるようにする。 ○ 綾の心情やその変化について話し合うことで、物語に描かれているものや人がどのような役割をもっているのか考えることができるようにする。 ○ 本時では、最後の場面の暗示性のある表現に着目し、登場人物の心情を結び付けて考えることを通して、物語を通して登場人物の考え方がどのように変化してきたのかを想像することができるようにする。(本時 6/8)	【知】登場人物の会話や行動、様子を表す叙述に着目して、様子や行動、気持ちや性格を表す語彙を豊かにできる。(記述) 【思】心情や情景を表す表現に着目し、物語の全体像を具体的に想像できる。(発言・記述) 【主】粘り強く物語の全体像を想像し、言語活動の再考に生かしている。(観察・記述)
8	3 それぞれの『たずねびと紀行文』を読み合い、感じたことを伝え合う。	○ 『たずねびと紀行文』を読み比べることで、全体像を表す言葉とその理由について、それぞれが着目した表現や叙述に対する個々の考えを共有し、自分の考えを広げることができるようにする。	【主】文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げようとしている。(発言・振り返り)

## 5 本時の学習

### (1) 目標

最後の場面の表現について、その意味や役割をこれまでに描かれてきたものや人と結び付けながら考えることを通して、心情や考え方の変容を捉え、紀行文をつくりかえることができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
7	1 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私は、紀行文について、まだ綾がどんな旅だと思っているのか、手応えがないんだよね。</li> <li>○ 私もこれまで綾が経験したことから綾の心情はだいぶ考えることができてきたよ。</li> <li>○ 私も。だけど、最後の場面はまだよく分からない表現が多くて、困っているんだよね。</li> <li>○ 確かに。「ポスターの名前がただの名前でしかなかった」って、どういう意味なんだろう。</li> </ul>
20	2 それぞれの着目している表現について、綾の心情と関連付けて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きれいな川は、きれいな川でしかなかったって書いてあるから、綾の考え方が何か変わっていると思うんだよね。</li> <li>○ そうだね。五の場面に川のことが書いてあったから、そこ繋げて考えてみるとよさそうだよね。</li> <li>○ 私は、「おもかげが重なって心に浮かび上がってきた」って表現が、綾の心情を表しているんじゃないかと思うよ。</li> <li>○ おもかげって顔のことだから、追悼祈念館で見た、たくさんの顔のことを言っていると思うよ。</li> <li>○ それって、数でさえない人々って表現と繋がるよね。原爆供養塔でのおばあさんの言葉と繋げて考えてられそうだから、もう一度七の場面について考えてみようかな。</li> </ul>
13	3 個々での話し合いで見いだしたことを共有し、それぞれの言語活動をつくりかえる見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私は、綾はこれまで、ただの名前としか思っていなかったけど、戦争でどんなことが起きたのかを知り、名前の中に一人一人、生きていた人がいたことを考えたんじゃないかと思います。</li> <li>○ 私は、おばあさんの言葉を聞いて、とあったので、今まで戦争で亡くなった人のことを忘れずにいることが、二度と戦争を引き起こさないことにつながるんだと綾が心に思ったんだと思います。</li> <li>○ そういう思いを込めて「楠木アヤ」という名前をもう一度、指でなぞったのかもしれない。</li> </ul>
5	4 本時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この旅を通して、綾の名前に対する見方が変わっていていることが分かったので、そのことを紀行文の旅の名前に生かしていきたいと思います。</li> <li>○ 私は綾が体験したことから、戦争に対する自分の考えや生き方を見つめ直していると感じたので「自分を見つめ直した旅」という名前につくりかえたいと思います。</li> </ul>



これまで、紀行文を書く活動に取り組み、物語の全体像を表す言葉を考えてきた子供たち。しかし、物語全体を通して考えると自分の表現に納得できていない姿があります。本時では、最後の場面の暗示性の高い表現に立ち止まり、その表現のもつ役割を他の場面の叙述と結び付け、全体像を想像する姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時までの学習の振り返りを取り上げ、その手応えや前時で生じた困りごとを共有することで、それぞれが考えている「旅の名前」（全体像を表す言葉）と、その理由となる叙述について見返すことができるようにする。
- 最後の場面の表現に着目している子どもの振り返りを取り上げ、暗示性の高い表現について、その意味を考えさせることで、どんな旅であるかを考える手がかりになりそうだという思いをもつことができるようにした上で、以下の課題を設定する。

ポスターの名前が、ただの名前でしかなかったと言っている綾はどんな気持ちなのだろう

- 八の場面でも他にも暗示性の高い表現に着目している子どもの考えを取り上げ、それぞれどの場面と関連付けると意味が考えられそうかを共有することで、自分の考えたい叙述に対する解決の見通しをもったり、話し合いたい相手を選択したりすることができるようにする。
- 五の場面に着目している子どもがいた際には、綾の心情につながる叙述を問うことで、原爆資料館でどのような出会いが綾の考えに影響を与えているのかを想像することができるようにする。その際、展示物の写真を実際に見て、自分が感じたことを伝え合うことで、綾の気持ちを追体験しながら想像できるようにする。
- 「名前」「顔」「数」といった象徴的な表現に立ち止まっている子どもがいた場合には、これまでの学習で綾にとってそれらがどう変化してきたのかを想起させることで、それらの表現と戦争で亡くなった人々を結び付けている綾の思いに気づくことができるようにする。
- その際、「わたしたちがずっと忘れないでいたら」という綾の言葉と関連させている子どもを見取り、第一場面でポスターを見ていた時の綾に立ち返るように促し、綾の「名前」に対する考え方の変化に想像することができるようにする。
- 最後の一文を考えている子どもには、「夢で見失った名前」と「おもかげ」が重なるという表現の意味を考えるよう促し、「綾の心に浮かび上がる」という表現と二の場面の夢の描写とを比較させることで、その時の綾と違い戦争で亡くなった一人一人に思いを寄せているという綾の考え方の変化に気づくことができるようにする。
- その際、「たずねびと」の題意について子どもが着目していた場合には、物語を通した綾の変容と「たずねびと」という言葉を結び付けて、探していたのは「戦争で亡くなった人たちに思いを寄せている誰か」であったことに気づくことができるようにする。
- 本時の学習で自分の言語活動に生かすことができそうな表現や理由に付け加えたい叙述を紀行文にメモさせることで、次時でのつくりかえへの見通しをもつことができるようにする。

#### 【教材・教具】

- 紀行文
- 掲示用拡大本文
- 挿絵
- ホワイトボード

#### 【評価】

表現の意味や役割について話し合い、心情や考え方の変容を捉え、言語活動のつくりかえに生かそうとしている（発言・記述）

